

現状の植栽地の拡大予定場所



今秋拡大予定

2021年10月施工 12月撮影

- ・赤点線の箇所が昨年10月に施工されたナチュラルリスティクガーデンです。今回の拡大計画はその右隣黄色の点線の箇所を現状のナチュラルスティクなデザインに合わせてさらにダイナミックな景色となるようにつなげる計画です。
- ・昨年植えた箇所は既存の土留を流用しましたが、3枚設置されており少し立ち上がり部分の高さがありました。今回の計画では、3段の植升を2段にしたり、立ち上がり部分の高さを押さえ、斜面でも土砂流れが防止できる土壌資材を使用するなど大阪市と相談しながら進めております。

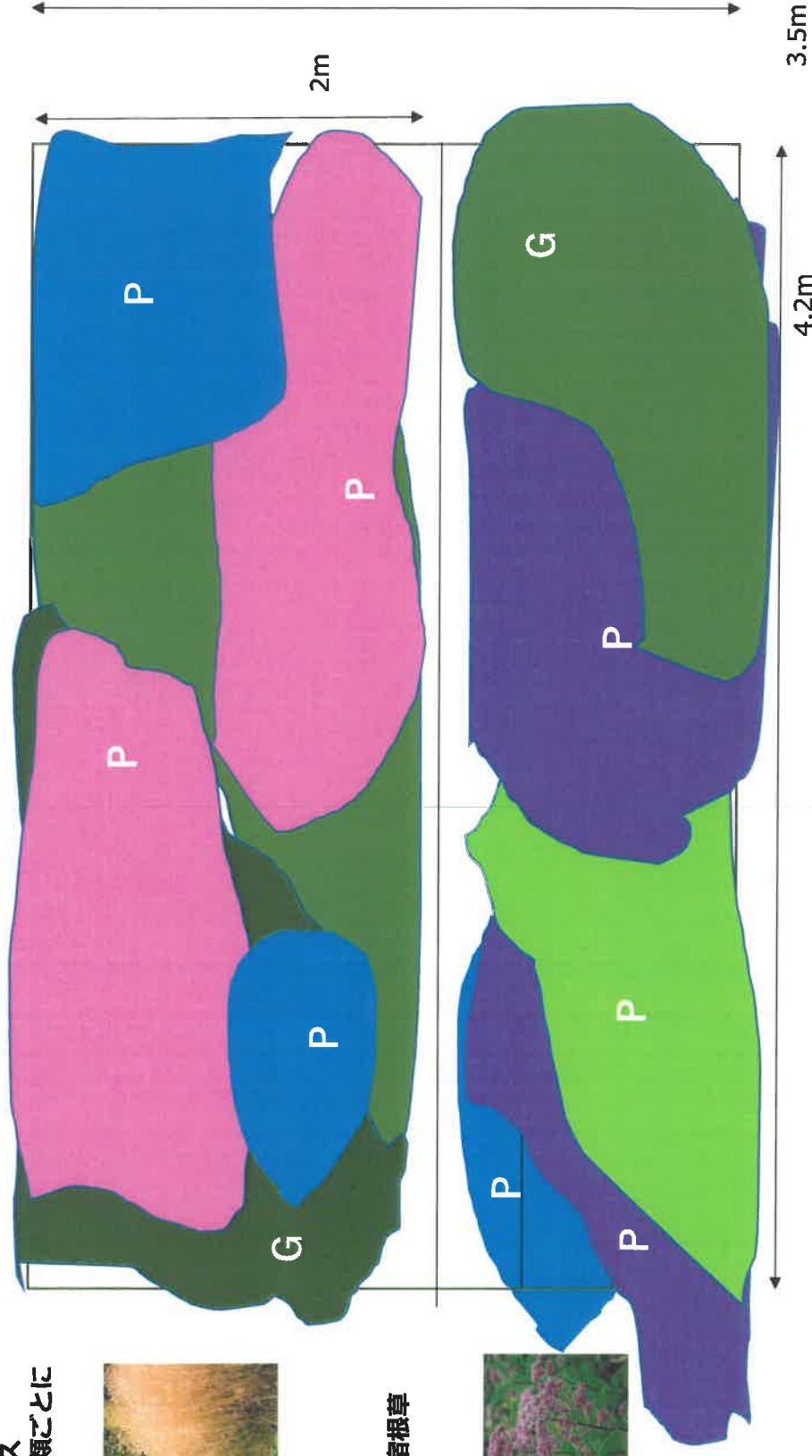
4.2m×3.5m=約14.7㎡ 設計イメージ 及び 使用植物

既存の10㎡のナチュラルスティックガーデンのパターンを基礎としながら、  
つながらりのある自然なダイナミックな景色をつくる

**G** Grass : オーナメンタルグラス  
色や形状の異なるグラスを種類ごとに  
群植する



**P** Perennial : 宿根草 (多年草)  
グラスを背景に見栄えのする宿根草  
で骨格をつくる



\* 土留の波板をできるだけ使用せず、最下段のみ既存と同じ程度の高さの土留を使用し、段数は2段に減らす予定です。



## OBPブルーミングブレイスで採用しているナチュラルスティックというスタイルのデザイン

アメリカ シカゴ [ルーリーガーデン](#)アメリカ ニューヨーク [ハイライン](#)イギリス ブルードン [ハウザー&ワース サマセット](#)

・日本では、全国的に一年草から多年草（宿根草）のガーデンへの移行がようやく進み始めましたが、日本の気候に合わない伝統的な多年草ガーデンとナチュラルスティックのような自然と共生する多年草ガーデンの区別があまりついておりません。

多年草のガーデンの中でも伝統的なスタイルを進化させたものがナチュラルスティックです。

周囲の環境と共生する自然な植栽を重視する「ニューペレニアルムーブメント」「ダッチウェーブ」という「うねり」が30数年前にヨーロッパで発生し、時間の経過とともに北米を席卷し、ようやく日本もその波が訪れようとしています。OBPブルーミングブレイスにおいても、いち早くその波に乗ることで、新しい植栽の可能性を発信する場所となれることを願います。

『SDGs』や『サステナブル』が最重要視される現代では、エコロジーとデザインが融合したナチュラルスティックな庭園づくりは、世界ではもはや王道となっています。

## デザインの特徴

- ・一年を通してどの季節も興味深いものとなるように考え抜かれており、特に枯れ姿を愛しむ冬の景色が美しい
- ・花だけでなくそれ以上に魅力のある特徴的な植物の構造や形を重視した植物選びと組み合わせ

OBPブルーミングブレイス寝屋川沿いの季節変化



①10月



②12月



③1月



④2月



⑤3月



⑥4月



⑦5月



⑧6月



OBPブルーミングプレイス寝屋川沿い現在の姿



2022年 7月撮影



OBPブルーミングブレイス城見1丁目交差点樺足元



一年草10月～3月  
コスモス  
ストック



一年草4月～6月  
デルフィニウム  
リナリア



NW 雑草



NE 宿根草 (コンダムデザイン)



SW 宿根草 (カラーリーフ)



SE 宿根草 (ハダマデザイン)